

## 山口大学学長と獣医師会関係者との会談記事

会長 中間實徳

標記の会談を下記の日時で開催しました。その記事の内容については関係者各位の了解を待ましたのでここに掲載します。

日時:平成 14 年 8 月 12 日(月)15:00 ~ 15:45

場所:山口大学学長室

### 出席者:

山口大学側 : 加藤 紘・山口大学学長  
小嶋直哉・山口大学副学長  
田浦保穂・山口大学農学部長

獣医師会関係者側: 五十嵐幸男・(社)日本獣医師会会長  
大森伸男・(社)日本獣医師会専務理事  
唐木英明・全国大学獣医学関係代表者  
協議会会長  
中間實徳・(社)山口県獣医師会会長  
藏内勇夫・(社)福岡県獣医師会会長

### 議題:獣医学部創設について

配布資料:1)要請書(1)「山口大学獣医学科の獣医学部への再編・統合について」 加藤・山口大学学長への五十嵐・会長名の要請書(平成 14 年 8 月 12 日付)

2)要請書(2)「獣医学教育の強化・充実(獣医学科の獣医学部への再編・統合等)について」文部科学省工藤智規・高等教育局長への五十嵐会長名の要請書(平成 14 年 4 月 26 日付)

3)獣医学教育改善と「中期目標・中期計画」(2002 年 7 月 29 日)全国大学獣医学関係代表者協議会 会長 唐木英明

4)「国公立大学の獣医学部創設の促進について(案)」:平成 14 年 10 月 12 日開催の中国地区連合獣医師大会への提案議題 山口県獣医師会会長 (中国地区獣医師会連合会会長) 中間實徳

### 議事

はじめに各自の紹介があり、五十嵐会長から本日の会談の設営に対して感謝の挨拶があった。

加藤学長にこれまでの日本獣医師会が取り組んできた経緯や要請書等の資料をお渡しした。

#### 1)大森専務からの説明:

「山口大学獣医学科の獣医学部への再編・統合について」の加藤・山口大学学長への五十嵐・会長名の要請書(平成 14 年 8 月 12 日付)及び文部科学省工藤智規・高等教育局長への五十嵐会長名の要請書(平成 14 年 4 月 26 日付)「獣医学教育の強化・充実」(獣医学科の獣医

学部への再編・統合等)について」の概要を説明した。

その主旨は、日本獣医師会がかねてから獣医学教育体制の整備を要請し、これまで教育年限については6年一貫への年限延長が実現したものの、いまだ国立大学の多くは学科制の中で改善が遅々として進まない。日本獣医師会が実施した新卒者のアンケート調査でも、特に臨床教育や公衆衛生に係る応用獣医学の整備を望む声が強い。このためにも、獣医学部設置が不可欠であるが、学生定員を現状で固定すると考えれば、その手法は再編・統合しかない。また、どのように再編・統合を進めるかについては、獣医学教育をあずかる現場の教官の意向を踏まえたうえで考えていただきたい。というものである。

なお、文部科学省に対しても、次の3点を要請した旨を説明をした。

(1)獣医学教育については、教育研究基盤の強化と充実発展を図るうえで獣医学部への再編・統合が不可欠であるとの観点に立ち、文部科学省が策定する「国立大学の再編・統合に関する基本方針」において、獣医学科については、獣医学部への再編・統合を基本とする旨を明示していただきたいこと。

(2)国立大学獣医学科間の再編・統合に当たっては、関係大学獣医学科の意見を参考にしつつ、文部科学省が主体性をもって決定していただきたいこと。なお、西日本の国立大学獣医学科については、その多くが、従来から九州大学に獣医学部を設置し、当該学部に再編・統合する旨を決意している点に特にご配慮いただきたいこと。

(3)公立及び私立大学の獣医学科についても、学生の入学定員に応じた十分な教員数とそれに見合う施設・設備を有する規模、すなわち、学部規模への整備について関係大学に対する格段の指導及び予算措置等の支援を行っていただきたいこと。

## 2)唐木会長からの説明:

日本の獣医学教育組織の規模は、入学定員が60名の場合に教官数72名以上が適切である。しかし、現状はすべての国立大学獣医学科において教官数が不足し、とくに臨床教官が少なすぎる。

全国大学農学系学部長会議で獣医学教育改善の必要性を認めていただいたことに深く感謝するが、教育改善の当初は教員数を54名以上でもよいとしている点については根拠が乏しい。

1978年より獣医学教育は6年制となったが、制度変更に伴う教官定員、施設、設備の手当では極めて不十分であった。その解決のために再編整備が必須であることは獣医学担当教官と文部省の間では合意に達していたが、関係学部長、学長の合意が得られずに20年以上が過ぎた。

6年制教育の発足とともに他に例がない広域の連合獣医学大学院を設置したが、速やかに発展的に解消するはずであった「緊急避難」的措置の連合大学院が現在もまだ存続している。

獣医師になりたい学生は、国際レベルに達していないことが分かっているにもかかわらず獣医学科に入学せざるを得ず、可哀想である。お願いしたいのは、獣医学教育の一日も早い改善であ

る。具体的には、西の4獣医学科が連合することがベストと考える。

さらに、関係の獣医学担当教官は九州大学に獣医学部を設立することを望んでいるが、よりよい案があれば当然検討の対象となろう。具体的な改善案の検討に際しては、担当教官の意向を是非汲んでいただきたい。

### 3)加藤学長の話:

何故これまで長く運動をされてきたのに、貧弱のままである点に驚いている。それまでの学生は可哀想だった。地域のことや大学法人化のことがクローズアップされ、厳しい状況になっている。地域からそっぽを向けられたら大学は生き残れない時代だ。

**唐木:**国立大学での獣医学教育は合わせて入学定員約300名の少数であり、医学部でいえば2~3大学の規模である。従って、その教育は一地域の問題ではなく、国として考えなくてはならない状況である。

**学長:**東日本の方はどういう状況か?

**唐木:**東6大学の担当教官の原案としては、北大、東大、九大の3大学を再編の受け皿候補と考えている。自助努力という線を打ち出している大学もあるが、教員72名を配置するのに学生数30名では、教育コストの面から問題が起こるのではないかと。山口大学と鳥取大学の2校で話し合いを行ったとも聞いているが。

**学長:**山口と鳥取の両大学の実務者会議を持った。まだ、鳥取大学からの返事はない。山口大学は連合大学院の基幹校だ。大学自体も独立法人化で大変だ。

**藏内:**九州大学元総長らとアメリカの獣医大学などの視察へ出かけた。アメリカの獣医学部はびっくりするほどの陣容や設備だ。

**中間:**獣医学教育は地域でなく日本全体として考えるべきことだ。国立大学は日本に10校があるが、全国各地にあるというものではない。

**学長:**地域のことも大切だ。現実的には山口大学から獣医学科が出ることは難しい。

**唐木:**県のレベルだけでなく、道・州制や、適正な大学の規模も考慮する必要がある。山口大学に立派な獣医学部を作っていただければ、それもひとつの解決法であろう。

**藏内:**山口大学に獣医学部を作ることの可能性は?

**学長:**規模の問題を別にすれば可能性はある。

**田浦:**山口大学で獣医学科が抜けると農学部は存続できない。他3大学の獣医学科の教官が山口大学へ来れるかという話を個人的にしてみたが、難しいのが現状である。また獣医学科関係者から九大総長との会談の希望がでているのでよろしく検討願いたい。

**学長:**西の4大学を統合するのではなく、鳥取大学と山口大学で、山口大学に獣医学部を作るという方向で当面は進める。九大総長との会談については、連合大学院大学間学長懇談会の確認事項もあり、宮大と山大的のみが会談するという事は、他の学長との信頼関係をなくすことになる。

**五十嵐会長:**大変お忙しい中、時間を取って頂き会談をさせて頂いたことに感謝する。

その後、学長との会談に臨んだ獣医学関係者は農学部長室へ移り小休憩の後、16:00 から 1 時間半ほど、農学部会議室で**農学部教官有志 6 名**(木曾・獣医学科長、林・獣医学科内の再編委員長、鈴木・連合大学院研究科長、甲斐教授、早崎教授、山本教授)を加えた 12 名で、忌憚のない話し合いを持った。

**田浦農学部長**から本懇談会は農学部教官全員へ案内を出したこと、先ほど学長と獣医師会関係者会で会談をしたことの報告があった。

**大森専務**から資料に基づき新学長への要請内容及び会談結果の概要を説明した。

**藏内会長**は各大学で獣医学部を作ることの合意を得ることで、次の段階で文部科学省が何処に作るかを考えることになるかと述べた。

**林委員長**は 54 名でなく 72 名の教官でなければ不十分だ。鳥取大学と山口大学のパートナー取引も良くない。大学の中期目標は連合大学院を解消し、教官 72 名、学生 60 名定員で、しかるべき大学に獣医学部を作ることを目指したい。6 月 28 日に新学長から山口大学に獣医学部を創設したい。教官 72 人プラス技官 20 人。前提は鳥取大学と統合して学生 65 人ということであった。獣医学科としては、これまでの検討の経緯から鳥取大学との統合は実現困難ということで、この申し出を蹴った経緯がある。

**木曾学科長**は今年 7 月 15 日に、加藤学長へ田浦次期農学部長とで要望書を持って、山口大学農学部獣医学科教官一同で、「九州大学獣医学部」の設置が共通した目標であることの確認をすると共にその実現にご尽力の申し入れを行ったと説明した。

**唐木会長**は独立法人化となる平成 16 年度からは、今までの常識は通らなくなるし、外部評価も厳しくなると述べた。

**中間会長**は家畜病院だけを残すという意見があるが、これは教育の上からも教官の側からも不可能なことだと述べた。

**早崎教授**は西日本、特に宮崎と山口では時機がかなり熟してきている。信頼関係が大切だと述べた。

**総括**として、学長が獣医学部の必要性を認めていることは良いことだ。全ての関係大学の学長が獣医学部の必要性を訴えれば、次は具体的にどうやればそれができるかということになり、最終的には落ち着くところに落ち着かざるを得なくなるだろうとの見解であった。